砺波カイニョ倶楽部会報　第71号
平成 25 年 7 月発行　発行者　砺波カイニョ倶楽部　代表幹事　柏樹直樹
事務局　富山県砺波市表町 14-10　電話　0763－33－6588　　天野一男建築工房内

小矢部市内　カイニョ見学　19 名参加

7 月 20 日　午前中、小矢部市内の屋敷林と埴生八幡宮の樹叢にふれ、クロスランドタワーから平野を一望する見学会をおこなった。19 名が参加した。梅雨明け前とはいえ、さわやかな太陽のもと、カイニョや樹叢内の散策に少し汗を感じ良い運動になった。

＜立体的で樹齢の重みただよう堀内さん宅のカイニョ＞

小矢部市胡麻島地区堀内喜亨さん宅は小矢部川右岸・直ぐ近くの散居村。この地区では、母屋をつつむ樹木のみられる家は 2 軒。堀内さん宅はその一軒。柏樹代表幹事が見学させてもらうことになった経過を説明（別掲）し、当主の堀内さんが説明された。

○ 野尻川と中村川の中間地帯の一番小矢部川に近い所。
○ 1640 年胡麻島に 6 戸、その後 1670 年からの庄川松川除工事によって庄川が安定し、開拓が進み、堀内家も 1 714 年頃に分家した。(299 年前)
○ 敷地面積 1,470㎡、北西～南西の風が多い。
○ 樹木数　高木（10m 以上）20 本。中木（5m～10m）27 本、母屋を囲んで全体にある。スギ、ケヤキ、カシの相観、北西面にタケ林
○ 維持する苦労――雨樋がすぐつまり、今では玄関前の下屋のみにした。屋根瓦の損傷（枝の落下）台風の倒木、枝うち、落葉掃除、除草は繰り返し続く。燃やせないことが問題。
○ カイニョを維持できた理由――①経済的に困難であり、そのままにしてきた。②近所の理解があった（落葉もガマン）。③良い大工さんがいた。
○ 木に対する思い――木によって家を守り、人も守ってもらっていると思うから。
○ カイニョの伐採。戦時中の供木　スギ 10 本くらい。奥を改築した時、伐採利用。
○ 浸水経験 1 回。台風被害は数えきれない。
○ この秋、間引き、枝の整理を予定している。見積もってもらったら 120 万円かかる。

×　　×　　×

堀内さんの説明のあと、林内を一巡した。東面は蔵をつつむ、スギ、カシを中心にした多数の樹木が成立。秋には間引きして風通しを良くしたいと。南面・母屋近くにケヤキの大古木がスギとの相観をつくる。西面もスギ、ケヤキ、カシ、西北面にケヤキを中心にしてタケ林が割合広い。気持ちよく見られるのは、年 1 回、軽トラー台分ほどタケのぬき切りをしていることにある。

×　　×　　×

一同、天上の高いワクノウチの広間で、お茶をいただいた。カイニョを通し入ってくる心地よい風に時を忘れかけた。

＜堀内さん（右端）の説明を聞く＞

＜堀内宅カイニョ（東北面から）＞

―柏樹代表幹事　挨拶要旨―

1）小矢部川右岸の散居の見渡せる範囲で唯一カイニョのある家が 2 軒あった。本命にした家を訪ねたが断られ、堀内さん宅にお願いした。
1）堀内さん宅のカイニョはシンプルで庄川扇頂部で見られる形と似ている。ケヤキとスギの相観で、重厚な形をつくる。中低木も多く、外からみていて何本かに赤と青のテープがまかれてあって心配しながらたずねた。話を伺うと、間引きと枝おろしの手を加える予定のテープであることがわかった。
1）安心、安堵の思いで、カイニョのある家の維持を応援するためにも、カイニョ倶楽部の主旨を説明、見学させてもらうことにした。
1）木の生息エリアが特別広い敷地でもないのに、樹叢の厚みを感じさせるのは何か、どんな思いで維持、付き合ってみえるのか、お聞きすることにした。

＜埴生八幡宮・6haの林内を歩く＞

103 段の石段を上り、神社境内で宮司、埴生雅章さんの説明を聞いた。立っている間に沢山のヤブカが近づき驚いた。とてもじっとしておれない状態だった。

神社の歴史、重要文化財の社殿のこと、木曽義仲の祈願社であり、前田利長が豊作を願い、社殿を寄進。「護国八幡宮」と名付けたと。

モミ、スギ、カシ、シデ、コウヨウザンを中心にした古い大木も入る 6ｈａの樹叢が社殿をとりまく。社殿裏は、御林というスギの人工林。平成 16 年 23 号台風で 200 本倒木した。その復旧を 30 名のボランテアや有志の皆さんで手がけ今も続けて管理してもらっている。ヤマボウシ、ヤシヤブシをスギと組み合わせ植栽した。
こうした話を参道や管理道を歩きながら現地で説明いただいた。そのあと休憩所でお茶をとり一服した。

＜宮司さんの説明を聞く＞

＜100m 上空から砺波平野を一望＞

約 30 分間、100m 上空から散居を遠望した。みなれた地域の一望であったがタワー直下から見られる範囲の散居は住居が水田の中でムキ出しになっていて、なんとなく殺風景な感じを受けた。

見学した胡麻島一帯も真下に望め、二軒の家だけが緑につつまれ、際立って目に入った。暑い日であったが、空気もすっきりしていて見晴らしが良かった。しばらくの空中散歩を体験した。

＜タワーより＞

砺波平野西北部の山手に近い散居見学会は 12 時近くに解散した。

■今回の見学会を通し

何故小矢部地内のカイニョが消滅したのかの疑問が大きくなった。

過去の調査記録・資料をさがすことから、いくつかの地域での聞き取り調査も必要である。現在カイニョのある家の客観的理由もほしい。今、小矢部市民は樹木との関係で、どんなつき合い方を希望しているのか。砺波全体の将来にかかわることでもあり、その解明も急がれる。

特に新幹線沿線・高速道路の近隣地では、緊急な課題であり、その対応策が求められる。

現に関西から北陸自動車道を県内に入った瞬間、まず目に入る小矢部地内の散居風景が、ムキ出しの孤立住居であるより、まわりに樹木があって迎えてくれるなら、もっと大きな感動を胸にするにちがいないとの声が聞かれる。本物のもてなしは、壮大な環境との共生の努力の中で創られ提供できるものではなかろうか。

＜次の集いの案内＞

カイニョ剪定講習会

8 月 24 日（土）午前 9 時～11 時（小雨決行）となみ散居村ミュージアムでカイニョ剪定講習会を開きます。
カイニョ倶楽部と市農林課とミュージアムの共催で実行します。

講師は、砺波造園組合の方で、持ち物は、剪定ばさみ　と　ノコギリ。

■申し込みが必要です
事務局　　天野まで（33-6588）　　締め切り 8 月 17 日（土）
（人数の制限があります。保険加入します）